

# 『平和を考える10日間』

(8月6日～15日)

詳しくは自治文化課

わたしたちにとって忘れることのできない8月。広島と長崎に人類初の原子爆弾が投下され、悲惨な戦争が終わったあの8月から68年の歳月が流れようとしています。

市では、過去の悲惨な戦争を振り返り、平和への願いを次の世代に伝えていくことを目的に、昭和57年から、毎年8月6日～15日の期間を「平和を考える10日間」として、平和をテーマにした、さまざまな事業を行ってきました。

今年も、平和への願いを込め、次の事業を行います。

## ■平和を考える10日間の事業

| 事業名                 | と き                                                           | ところ              | 内 容                                                                         |
|---------------------|---------------------------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 平和講演会<br>「被爆体験を聴く会」 | 5月22日(火)<br>6月11日(火)                                          | 桶川中学校<br>桶川東中学校  | 講師：原 明範さん<br>(埼玉県原爆被害者協議会しらさぎ会)<br>【事業は終了しました】                              |
| 平和の折鶴募集             | 6月17日(月)<br>～7月12日(金)                                         | 市内公民館<br>など      | 平和を祈願した折鶴を集め、広島・長崎両市に送付します。<br>【募集は終了しました】                                  |
| 平和を考える写真・<br>資料の展示  | 8月1日(木)<br>～15日(木)                                            | 駅構内・見る<br>観るコーナー | 戦災や平和に関する資料と横断幕を掲出します。                                                      |
| 平和のキャンペーン           | 8月6日(火)<br>午前7時～8時                                            | 駅東口・西口           | 街頭キャンペーンを実施し、本事業の趣旨「恒久平和」を広く市民にアピールします。                                     |
| サイレン吹鳴              | ①8月6日(火)<br>午前8時15分<br>②8月9日(金)<br>午前11時2分<br>③8月15日(木)<br>正午 | 市内               | ①広島原爆投下時刻<br>②長崎原爆投下時刻<br>③終戦記念日<br>の3回に分けてサイレンを吹鳴します。                      |
| 平和図書コーナー            | 8月6日(火)<br>～15日(木)<br>※ただし8月12日(月)<br>は休館日                    | 市立図書館            | 図書館所蔵の平和関係図書の展示と、貸出コーナーを設置します。                                              |
| 戦争体験記頒布             | 随時                                                            | 自治文化課            | 昭和62年から平成18年の間に市民の皆さんから寄せられた体験記を頒布しています。<br>①いのちの伝言(500円)<br>②続いのちの伝言(200円) |

## 私の戦争体験記

### 私の戦争体験記



小野澤 悟さん  
(坂田在住)

私は隊の本部付の検閲係でした。戦時中で内地からの手紙が多く、中には恋人や妻からの甘い手紙があり、兵士は、皆、内地からの手紙を大事に自分の胸に下げていました。各中隊参り中に、意地悪な上官からベッドの段下を「うぐいすの谷渡りホーホケキョ」と鳴きながら渡るように、命令され、辛い思いをしました。

上官の命令は絶対で、命令にためらったりすると、素手で殴られました。当時の日本軍では、至るところで、このような上官の暴力がありました。

私は幸いにも、終戦の年の十二月一日に、中国の石家荘<sup>※せいかさう</sup>を出発して天津<sup>※てんしん</sup>港に行き、天津港からアメリカ海

軍フリゲート艦に乗りました。小便は、甲板に上り、ロープにつかまりながらしました。海上には、日本海軍の機雷が浮かんでいて、アメリカ兵が銃器を使って機雷を爆破処理して、まるで戦場のようでした。心地がしなかったです。

荒波にもまれ、約一ヶ月間の乗船は大変でした。九州の大村港に着きましたが、桟橋もない浅瀬に停船すると艦の後尾が開き、それが桟橋となったので、大変驚きました。待ちに待った内地の土を踏み、艦の皆で日本に帰れたことを喜び合い、それぞれの故郷へ帰りました。

私は、昨年、九州に行き、思い出の地、長崎の大村に立ち寄りました。港に「外地より引き揚げ者の地」という碑が建っていました。

日本が戦争を二度としない、平和な国であるようにと祈るばかりです。

中隊参り…教育隊内の仕組みで、学級各級ごとにまわること  
石家荘…現在の河北省の市

### 鮮烈な映像・甲府空襲



小宮山 勝さん  
(坂田在住)

山梨高専の一年生のとき、出征した義兄の姉の家に同居していた昭和二十年七月六日夜十一時五十三分、空襲警報のサイレンと同時に二階の窓ガラスに目も眩むばかりの青白い閃光が映った。照明弾だ。愛宕山が真っ赤な炎を上げていた。驚き、姉二人に逃げるように叫んだ。私は、カーキ色の学生服にゲートル、戦闘帽の上に防空頭巾を付け、路地を走った。

空は赤黄色の閃光の列、街の四方は真っ赤な炎が闇空を焦がし、街を火の壁で包囲するように火柱を上げて燃えている。逃げられぬように街の周りにガソリンと焼夷弾を落とす続けている。頭上に赤黄色が閃き、焼夷弾が数発、近くで炸裂した。黄燐が飛び散り、火の玉のように燃え、家々から火の手が上がり、見る見るうちに火は広がっていく。ガソリン臭い。また、焼夷弾だ。私は、必死に舞鶴城に逃げた。

市では、「平和を考える10日間」の事業の一環として、過去の悲惨な戦争を振り返り、平和への願いを次の世代に伝えていくことを目的に、昭和62年から「私の戦争体験記」として戦地での体験や戦時中の生活の体験を、市民の皆さんから募集して毎年広報へ掲載してきました。今年度も8月15日の終戦記念日にあわせて戦争体験記のご応募をいただきましたので、ご紹介いたします。また5月と6月に市内中学校で実施した「被爆体験を聴く会」参加生徒の感想文もあわせてご紹介します。



城の近くにきた時、頭上すれすれにキーンと金属的な音がして、ピカッと青白い閃光が走り、ユウユウーと音を立てて焼夷弾が落下してきた。直撃を避けつつ、息せききって城のそり立った大石垣に雨蛙のように、へばりついた。ピカッと空が閃くとヒューヒューと不気味な音を立て青く赤く尾を引いた火の玉が民家に吸い込まれ、次々と火柱が上がる。私は、ただただ石垣にへばりついていた。

二十数分後、B二十九は、飛び去ったが、市街は火の海、火の粉が降ってくる。不気味な風は、ゴーゴーと音を立て火の粉と黒煙を渦巻かせ、猛火は時々、ドドンと大音響をたてて爆発し、火柱は天を焦がし、悪魔の目のように赤黄色に変化し、渦巻き、火蛇が狂乱する地獄のようでした。私は、ただただ悲しく、涙が止まらなかった。

広島・長崎に原爆が投下され、八月十五日の敗戦。鮮烈な映像は心の奥に深い傷跡として、今でも残っている。戦争は、繰り返してはならない。決して繰り返してはならない。

ゲートル…ズボンの裾を押さえて、足首から膝までを覆うもの。  
多くは軍服用  
焼夷弾…建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾

# 被爆体験を聴く会感想

## 森田 美保さん(桶川中学校3年)

私はこれまで、戦争は教科書の歴史の一部としか捉えておらず、身近に感じることはありませんでした。しかし今回、実際に被爆した方から「生」の体験を聴き、戦争はそんなに昔のことではないのだと感じるとともに、これまで私が知らなかった戦争や原爆の真実を知ることができました。例えば、米軍が原爆を落とした目的はその殺傷能力を試すためであり、広島の人々が屋外に出る時間帯を狙ったことや、投下後に治療も救援活動もせず、被爆の被害をひた隠しにしたことを初めて知り、その残忍さに怒りを覚えました。

私は講演会の後、人はなぜ戦争という非道な行為ができるのかと考えました。私は、儲けたい、独占したいといった人間の欲が戦争の一因ではないかと思うようになりました。しかしその欲は、戦争の恐ろしさや悲しさを知ることによって抑制できます。講師の方も、「戦争や原爆の惨状を知ること、同じ過ちを繰り返さないためにとても重要だ」とおっしゃっていました。私は、本当にその通りだと思います。

また、痛みを「想像する」ことも大切だと思います。私は、もし自分や家族や友人が原爆で被爆したらと想像してみました。様々な夢や希望や絆が、一発の原爆で一瞬にして全て消えてなくなってしまうと考えると、とても悲しく、悔しい気持ちになりました。「想像する」ことは、戦争の犠牲になった人たちの痛みを少しでも共有し、記憶を風化させないことにつながります。私たちには、戦争や原爆の恐ろしさや愚かさを伝えていく責任があります。今、私たちが「平和」に暮らしていけることに感謝し、その有り難い平和を世界に広げていきたいです。



平和講演会「被爆体験を聴く会」(桶川中学校)

## 高橋 里沙さん(桶川東中学校3年)

今回の講演会を聴いて、改めて原爆・戦争の恐ろしさを知りました。今までに何回も原爆や戦争の話を聞いてきましたが、どこか他人事のように感じていたように思います。でも今日、実際に被爆した方のリアルな話を聴き、とてもつらく惨いものだとなりました。被爆体験のお話では、そのときの様子が浮かぶように細かく、鮮明な話をしてくださいました。特に原爆が落とされたときのお話は、とても恐ろしいものでした。建物の外側と内側、たった少しの差で生死をわけてしまうということが、どんなに辛いことなのか私には想像もつきません。その後の幼なじみの中森さん兄弟の様子は、目を覆いたくなるような光景だったと思います。たくさんの方が、ひどい火傷、怪我を負い、自ら死を選ぶほど苦しいだなんて本当に地獄のようだと思いました。また、アメリカの対応は、とてもひどいものだと思います。たくさんの方が死んでいたにもかかわらず、トラック一台分の医薬品しか支援しないだなんて信じられません。ですが、全ての原因は、戦争にあると思います。戦争を起こしたからこそ多くの人

が死んでいったのです。私たちは、戦争の怖さを知り、こんなことは二度と起こさないように必ずしなくてはならないと思いました。

最後に、講演会を振り返ってみて、このことをずっと忘れず、後世まで伝えていくことが大切だと思います。そんな中でも、今日のことを覚えていて、まだ戦争や原爆のことを知らない子供たちに教えていくことが私たちの役目だと思います。さらに、署名や募金など、私たちができることを少しずつでもやっていけたらいいなと、思います。



平和講演会「被爆体験を聴く会」(東中学校)

## 私の見聞した戦争体験



砂川 忠夫さん  
(若宮在住)

暑い夏の記憶、大きな仁王様が次々と大声を上げながら車から降りてくる。今まで、聞いたことのない言葉だった。今思えば、敗戦を小学校一年生で迎えた年、目にした仁王様は、進駐軍の兵隊でした。初めて食べたチョコレートの美味しさ、恐いながら、大きな手にあるチョコレート欲しさに、進駐軍のいた飛行学校に通いました。

しばらくすると、練習機も進駐軍も飛行学校から消えましたが、建物は残り、そこに焼け出された人たちが、外れから引き揚げてきた人たちが、大勢、疎開してきました。当時の食料不足は深刻で、生きていくために食べられるものは何でも食べました。子供ながらに戦後のひもじさは体が覚えていきます。疎開してきた学童は、勉強はできる、喧嘩は強い、足は速い、センスは良い、憧れの的でした。当時の道路は、砂利道で、バスは木炭車、橋は潜水橋でした。鉄道は

## 無理無体な銃後の守り



福田 太郎さん  
(下日出谷西在住)

「今日も学校へ行けるのは、兵隊さんのお陰です」で始まる軍歌の独唱は、昭和十六年に成立した国民学校へ入学した年の学芸会でした。以来、松脂や杉葉の採集、麻や向日葵の植え付けと繊維や種の収穫、軍馬の飼料となる干草作りのノルマなどが、国民学校低学年の授業と夏休みの宿題の一端でした。松脂は飛行機

蒸気機関車で、座席はボックス式、座席の下にはヤミ米を入れ、連結器の間に跨って通学するような状態が昭和三十二年頃まであったと記憶しています。上野公園には、今と言うホームレスのような住まいや仕事がない人たちがあふれ、傷痍軍人が汚れた白衣を着て、あちこちで募金を行っていました。東京タワーの建設、オリンピック開催で浮かれていた昭和三十六年頃には、白衣姿の傷痍軍人の人

たちは少なくなりしましたが、それでも、何人かは見かけました。戦争で散った多くの、外地に残された幼子、抑留された人、それらの方々の大きな命の代償、犠牲を払って築かれた今日の生活です。悲惨な戦争は、いかなる理由にせよ絶対にしてはならないと、若者や孫たちに伝えたいと強く思っています。

進駐軍…日本に進駐した連合国軍の俗称

の燃料に、麻の繊維は落下傘の材料になると言われました。

忘れられないのは、浦和市立高砂国民学校の二年生に進級してからの新聞配達です。早朝、集配所に集まり、五、六種類、約三十部ほどの新聞を仕分け、油紙で包み左手で抱えての配達でした。今と異なり、外灯はなく、路地や小道は暗く、怖くて一目散に息せき切って明るいうちに帰りました。新聞受けも小学校低学年の児童では届かない家もあり、特に冬の雨の日などは、ただただ、どうしようもありませんでした。学童とはいえ、日本男子です。弱音を吐くのはタブーでした。新聞は、植え込みの下などに濡れないようにと、小さく畳んで、そっと置くのですが、

今と違ってビニールなどといった便利なものはない時代でした。登校前に新聞を三十軒近く間違えずに配るのは、八歳の児童にとつて、とても大変なことでした。時々、数や種類が合わなくなっていました。仕方なく、最後の家は残った新聞を配ることになります。幸いなことに終わりのほうに、数紙を購読している町工場があり、そこで帳尻を合わせるようになってしまいました。子供ながらの精一杯の知恵でした。ところが、社長さんが時々、門前で待っていて、叱られるのがどうにも辛く悲しいものでした。申し訳ないと反省し、謝るのですが対策の立てようがないのです。能力を超えた無理を承知の、無理無体な銃後の守りでした。足りなくなると逃げ帰り、余ると、ちぎって川に流しました。余って持ち帰ると、家で待っている母に叱られたからです。

今、入学式には、父母どころか祖母まで同伴するという時代です。これも、平和なればこそこのことです。憲法論議もかまびすしい昨今、幼い日に経験した理不尽を、書き留めておかねばならないという思いに駆られた次第です。

銃後の守り…戦場の後方、直接戦闘には参加しないで戦争を支援している国民(主に女性と子供)のこと



# 「長寿を祝して」



## 9月敬老事業のご案内

詳しくは▶高齢介護課

9月16日の敬老の日を迎えるにあたり、長年にわたり社会に貢献され、また桶川市を温かく見守り、育てていただいた皆様に心から感謝し、お祝い申し上げます。

わが国の平均寿命も延び、国際的にも長寿国の一員となっております。これもひとえに皆様方の日ごろの健康管理へのご努力と、医療の進歩が要因に挙げられます。

そうした高齢者の方お一人おひとりが、これまでの豊富な知識と経験を活かし、健康で充実した生活が送れますよう、また生涯にわたって生きがいを持ち、安心して暮らすことができますよう、ご祈念申し上げまして9月の敬老事業をご案内します。

(※満年齢は、平成25年度内に迎える年齢となります。)

### 敬老祝金の贈呈

【対象者の年齢と支給金額】

満80歳、88歳、90歳、

99歳および101歳以上▶10,000円

満100歳▶100,000円

贈呈方法▶地域の民生委員を通じて贈呈

※満100歳の方は、誕生月の贈呈となります。

### 市内循環バス 「べにばなGO」の無料乗車

対象者▶75歳以上の人

利用期間▶9月1日(日)～30日(月)1か月間

利用方法▶8月下旬に郵送される「バス無料乗車券(はがき)」を提示してください。

### 老人福祉センター 「カラオケ発表会」

と き▶9月5日(木)午前11時～

ところ▶べに花ふるさと館

中庭ステージ(雨天時は母屋2階)

申込期間▶8月5日(月)～12日(月)

対象者▶60歳以上(先着30人)

問合せ▶老人福祉センター

☎728-1122

### 地域等敬老事業助成金

自治会や地域などが行う敬老事業に対して、その事業費の助成を行います。

## けやき文化財団主催

### ◎祝・敬老「鳥羽一郎 歌謡ショー」

と き▶9月8日(日)

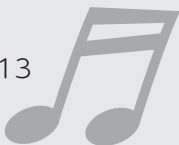
午前の部(午前10時30分開場)

午後の部(午後2時開場)

ところ▶市民ホール

販売▶市民ホール受付

問合せ▶市民ホール☎789-1113



### ◎「べに花ふるさと館」の食事割引き

内 容▶うどん、そばを75歳以上の方は半額、88歳以上の方は無料

期 間▶9月1日(日)～30日(月)午後1時～8時

日曜日は利用できません。

月曜日は休館です。

16日、23日(月・祝)は開館し、

翌日は休館となります。

利用方法▶8月下旬に郵送される「食事券(はがき)」を提示してください。

(期間中1回限定・本人のみ有効)

問合せ▶べに花ふるさと館☎729-1611

